特定非営利活動法人 太陽光発電所ネットワーク

総 会 議 案 書

2013 年 9 月に開催した「自然エネルギー学校 in 野田村」の様子

2014 年通常総会

[第 9 期：2013 年 6 月 1 日～2014 年 5 月 31 日]

2014 年 7 月 19 日（土）13：30～

明治大学リバティタワー10F　1106 教室

目次

組織図 P. 3

はじめに（2013 年度全体総括） P. 4

1 号議案 2013 年度活動報告 P. 5

（1） 重点目標 P. 5
（2） 全体活動一覧 P. 8
（3） 各地域交流会活動報告 P. 9
（4） 各専門部会活動報告 P. 17

2 号議案 2013 年度決算報告（別紙）

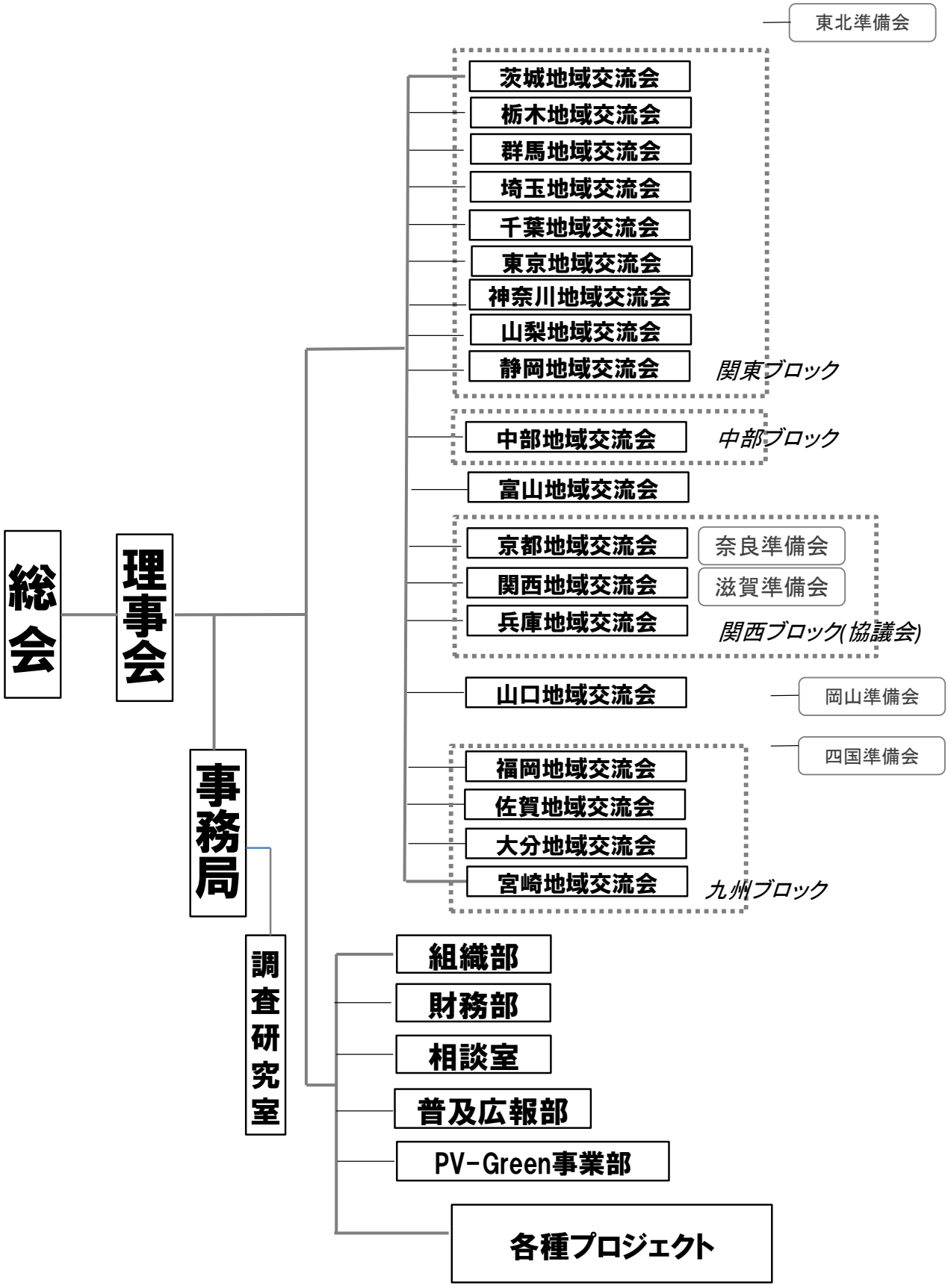
3 号議案 2014 年度活動方針 P. 18

（1） 大方針 P. 18
（2） 活動面での重点目標 P. 19
（3） 組織面での重点目標 P. 20
（4） 各地域交流会活動方針 P. 21
（5） 各専門部会活動方針 P. 26

4 号議案 2014 年度予算（別紙）

5 号議案 定款改定 P. 27

太陽光発電所ネットワーク（PV-Net）組織図



はじめに（2013 年度全体総括）

市民活動の場に、若者、主婦、学生など、多彩かつ多様な顔ふれが現れ、この流れから太陽光発電の導入推進活動にも多彩なメンバーが参加する時代となっています。新たな活動団体が次々と立ち上がっており、それぞれが地域に根ざした活動を展開してきています。そんななか、活動体制を刷新した活動 11 年目は、全国組織である PV-Net の存在意義と活動の方向性が問われた 1 年でした。

先行して活動してきた団体としての実績を活かして、市民の自立的な太陽エネルギーの活用と普及をサポートしていくことを大方針に掲げ、市民ファンドサポートセンター活動や PV システムの健全な維持・管理方法（発電量の検証、システム機器の検証のソフト・ハード両面からのメンテナンス）の模索、実践、提言を行ってきました。

PV 健康診断の推定発電量表示の回復は第一優先事項として取り組まれてきたものの、さまざまな状況が発生し、結果、昨年度中に復活させることができずに会員のみなさまの期待を大きく裏切る結果となりました。このことは活動全体を停滞させる原因となっており、次年度の早い時期に回復するべく、解決に向けて尽力しています。

住宅用だけでなく地域にまで拡張した太陽光発電の有意義な活用のため、市民ファンドサポートセンター活動の事業基盤の整備と充実化を行い、一定の評価と実績を残すことができました。

一方で、ストリングトレーサーやアレイチェッカー、電圧・電流計等を使用したシステム機器のデータ取得とメンテナンス手法の模索は、自主勉強会や福島実証モデル事業のなかでしっかりと経験を積むことができました。今後は、地域会員に対し、どのような方法とマニュアルで展開していくかは次年度以降の課題となっています。これら市民ファンドサポートセンターの実績と、福島県内で市民共同発電所を建設・運営する福島県内の市民団体を支援した年間活動の成果は、市民共同発電所設置に関するガイドラインとしてまとめました。こちらは現在、書籍化の段階に進んでいます。

このほか、自主事業の充実や助成金の獲得、認定 NPO 法人化などの財政面の改善を図りましたが、好転に至っていません。そのため、事業として実施できる活動に偏った結果、個人住宅の太陽光発電オーナーに対する活動のサポートが不足しているという指摘もあります。個人の太陽光発電所長の集まりから始まった活動である事を改めて認識し、大切にしながら、バランス保ちつつ次年度以降の活動に生かしていきます。

2014 年 7 月 1 日

特定非営利活動法人太陽光発電所ネットワーク

共同代表　藤井石根　都筑 建

1 号議案　2013 年度活動報告

（1）重点目標

重点目標 1　地域交流会の充実と相互交流（活動基盤づくり）

PV-Net の活動の原点・出発点は会員、そして地域の活動です。そのなかで会員が参加しやすく、交流できる直接的な場、外に向かって発信する場、情報交換・共有の場として、「地域フォーラム」を各地域交流会が開催することを進めてきました。2013 年も、静岡、中部、埼玉、東京、兵庫、神奈川、大阪、千葉などの地域で開催されました。その内容も各地で工夫を凝らしたものとなっており、例えば、「節電・創エネより、暮らし方そのものを見直そう」とした中部地域交流会。「市民発電所設置を積極的に推進しよう」とした静岡地域交流会。「独立型太陽光発電システムの自作ワークショップを展開しよう」した神奈川地域交流会などが、特長ある活動として挙げることができます。また、新たな地域交流会の設立を目指し、岡山地域、東北地域では会員有志による交流会が開催されるなど、地域交流会の拡大に向けて、着実に前進しています。

一方で、まだすべての交流会で地域フォーラムが開催できているわけではありません。その実現には、各地の事例を参考にして、開催への努力を進めること。さらには、地域相互の連携・協力や、センターからの適切なサポートも行う必要があります。

① 各フォーラムの実施内容のデータベース化と大集合イベントとの連携

各地域の開催するフォーラムやイベントなどの情報提供は、大幅に拡充されました。PV-Net ホームページの最新情報に掲載された情報は、前年度の 2 倍ほどになり、ツイッターや Facebook でもタイムリーな情報提供が行われました。ただし、データベース化というところまでには至っていません。3 月に開催した大集合イベントについては、多くの人に関心の高いテーマを、タイムリーに取り上げることができました。

② ブロック会議の活性化

PV-Net の組織として 4 つのブロック（関東、中部、関西、九州）があります。中部ブロック、関西ブロックについては活発に動いていますが、機能し始めていた関東ブロックが停滞してしまったことは反省すべきことです。地域交流会ができた経緯もそれぞれ異なることから、改めて地域の実情に合った運営の方法を見直し、考えていく必要があります。

重点目標 2　個人 PV の実用的なソーラーライフをつなぐ

太陽光発電の普及は固定価格買取制度の導入により、数量としての普及は大幅に進む状況となりました。普及量だけに注目する時代から、本来の目的である PV によって豊かで、持続可能な暮しと地域をつくる時代へと大きく移行しています。

具体的取り組みとして昨年度は、 ① **小諸エコビレッジの活用とソーラーキッズ** の実施を第一に掲げてきました。子どもたちの世代の参加を促し、年齢層を大きく広げ家族全体・地域全体で PV を活用し、定着することが大切との考えソーラーライフの取り組みの核に考えました。小諸エコビレッジは東京港区所有の小学生を対象とした自然豊かな学園跡地です。ソーラーキッズが集合し、自然エネルギーを体感し、学ぶ場としては最も適した施設です。実際に小諸エコビレッジでは福島の子どもたちを対象としたキャンプを実施するなど、多くの子どもたちを迎え入れています。昨年度、PV-Net 主催のイベントや学習の場は作ることができませんでしたが、今後、補助的な取り組みから、より主体的な取り組みにしていくことが望まれています。

2 番目の取り組みである ② **先進事例の交流とネットワーク** の実施は、数多くの地域交流会で自主的な形で取り組まれました。昨年度の大きな特色といってよいでしょう。

さらに全体の活動として、3 月 16 日に開催した「コミュニティ（市民共同）発電所を作ろう大集合イベント」は、会場となった明治大学の大教室が満席になるほど盛況で、個人 PV と共に地域で共有する PV の意義とソーラーライフの地域化への拡大を意味するものとなりました。先日 6 月 11 日には、千葉県でソーラーシェアリングの見学・学習会を実施し、農業の分野との共生の可能性を探る試みとして検証できたことは今後の PV 活用（ソーラーライフ）に活かされ、大きなプラスになりつつあると言えます。

また、昨年 PV-Net を取材で訪れた若手新聞記者が 5 アンペア生活を実践しており、大きな感銘を受けました。その生活の様子は今春、「本気で 5 アンペア」として書籍化され、会員の意識や関心を呼び覚ますものとなっています。

重点目標 3　事業活動の基盤整備と発展へ（経済基盤の確率とサポート活動）

① PV-Green 事業の継続・発展

事業運営の効率化をすすめながら、理事会、事務局、地域と共働し、「顔の見える範囲から活用を」というスローガンのもと、活用団体の新規開拓に力を入れてきました。販売実績は昨年に比べ 1 割増加しています。

② 市民ファンドサポートセンターの継続・発展

新規で 3 件の依頼を受け、依頼を受けた地域を中心に地域交流会の立ち上げなどにつながる活動を実施してきました。地域に根差した活動への展開は、これからの継続課題になります。また東京、静岡、千葉、関西など地域でもサポート活動を行っており、全体と地域の連携が、今後の活動の発展の重要なカギとなっています。

③ PV 教育事業

各地で職業能力開発センターの講師、講演会依頼などを受け、一昨年よりも実績を伸ばしました。講師派遣事業は、主催イベント等と比較して経費がかからないため、地域活動および全体の財政強化に結びついています。また、蓄積されたノウハウを活かすことで、自然と活動メンバーの人材育成にも結びつくなど、PV-Net の活動基盤強化にもつながっています。

④ 相談事業

推定発電量を利用した PV 健康診断の実施はできなかったものの、近隣比較を活用し、地域内の会員同士のコミュニケーションの促進、とシステムの検証を進める活動が活発となりました。また、メンテナンス事業の検討に関しては、福島県内で 10 件以上のシステムデータを計測する事業を実施しました。データ計測に関する相談員研修会も開催し、データ計測の実務を体験してもらいました。一部の地域でも 10 年を超えた会員システムを検証する活動を実施しており、それらの報告と実施活動から、事業化に向けた素材を集め、専門家と共に事業化の検討を行いました。事業化するためにはもう一歩踏み込んだ取り組みが求められています。

⑤ 助成・委託事業の受託

継続案件についてはそのまま採択されたものの、新規採択を受けることはできませんでした。活動を見直し、対外的に魅力のある活動を申請していくことが課題として残りました。

⑥ その他新規事業の模索

10 年を超えるシステムの調査・研究に関しては、地域で個別実施したものの、次年度の継続研究課題となっています。保険事業に関しては、まだまだ困難な部分があり、検討は行いましたが事業化にまでは至っていません。

重点目標 4　普及広報活動の強化

① ホームページ掲載内容の充実　② 会員への情報提供の充実　③ 政策・社会に関する政策提言

センターや各地域交流会で行われている PV-Net 活動の情報発信（イベント告知・報告、メディア掲載）をホームページ、SNS、会員向けメールニュースを通じて、積極的に行いました。また市民ファンドサポートセンター専用ホームページを立ち上げ、市民共同発電所プロジェクトの PR や市民ファンドの資金調達に大きく貢献しました。さらには、会員以外を対象とした一般向けのメールマガジンを試験的に開始。イベントの集客やパブリシティの効果を確認できたことから、次年度には本格導入を行います。

政策提言については、5 月に電圧上昇抑制の問題点と解決策を報告した「太陽光発電の普及・促進の影で」を発表しました。レポート内容については、今後、国や電力会社、認証機関等へ提言・要望するなどの活動を行っていきます。

重点目標 5　事務局体制の強化と地域サポート体制の強化

①人材確保とスキルアップ　② 地域活動で活用できる各ツールの充実・発展　③ 独自基盤および地域との連携基盤の構築と充実

この 1 年、HP 更新情報の充実、定期的な会員へのメール配信などの情報発信力を上げ、地域活動の広報部門のサポートを強化してきました。また、ツイッター、Facebook などを活用し、リアルタイムでの地域活動報告も新たな取り組みのひとつです。情報連携という部分では、広報だけでなく、運営面でも相互で情報が共有できるような仕組みづくりを行い、各地の会議議事録、全体の理事会情報などの情報共有を充実させてきました。また、独立型 PV 組み立てワークショップを地域と連携で開催するなど、活動面での協働連携も始まっています。ただし、地域活動を円滑に行うためのツールとして制作が進められていた地域データベースシステムは、完成したものの、運用にまで至ることはできず、次年度の課題として残っています。また推定発電量の表示も、次年度に引き続く課題となっています。

人材確保という点では、自身の持つスキルや知識を活かして、イベントやセミナー等の発案から実行、また実践的なアドバイスを行うなどセンターをサポートする会員の活躍が見られました。

（2）全体活動一覧

センター主体の取り組み・イベント

2013 年 6 月　野田村だらすこ市民共同発電所点灯式＆見学ツアー
7 月　再生可能エネルギー世界展示会（東京ビックサイト）
8 月　インターン生受け入れ（専修大学 2 名）、太陽エネルギー学校 2013（小諸エコビレッジ）
9 月　自然エネルギー学校 in 野田村
10 月　ソーラーパネル組み立てワークショップ（原発ゼロ市民共同かわさき発電所、みらい館大明まつり）
12 月～2 月　再生可能エネルギーセミナー（岩手県久慈市、大船渡市、一関市、紫波町）
2014 年 1 月　みんなでつくろう！太陽光発電所 in 岡山 勉強会（岡山県美咲町）
2 月　インターン生受け入れ（慶応大学 1 名）
3 月　太陽光発電所長大集合イベント 2014「広げよう！コミュニティ発電所」（明治大学リバティタワー）
5 月　太陽光発電に係るさまざまな諸問題への提案書「太陽光発電の普及・促進の影で」発表
通年　小諸エコビレッジの運営

助成事業、受託事業、その他事業

葛飾区グリーン電力証書化事業（東京都葛飾区【継続案件】）、大垣市グリーン電力活用推進事業（岐阜県大垣市【継続案件】）、市民による太陽光発電の逸失 CO2 削減最小化事業（地球環境基【継続案件】、福島実証モデル事業（経済産業省）東京都太陽エネルギー入門ガイドブック作成協力

委員等就任

太陽光発電システム標準化総合委員会、九州ソーラーネットワーク（SONEQ）、太陽光発電の直流電気安全基準策定委員会、白河市マッチング事業課題検討委員会、世田谷区自然エネルギー活用促進地域フォーラム

制作物

市民共同発電所ガイドライン（福島実証モデル事業）
太陽光発電に係るさまざまな諸問題への提案書「太陽光発電の普及・促進の影で」

データ提供

住宅用太陽光発電システムに関するアンケート調査（提供先：資源総合システム、経済産業省）
個人住宅太陽光発電設置者の発電量データ（提供先：産業技術総合研究所加藤和彦研究員）

メディア出演、掲載

朝日新聞、東京新聞、テレビ東京系列「NEWS アンサー」、レインボータウン FM「夢に向かってスイッチオン」、Love Solar TV、エコロジーオンライン、ジャパン・フォー・サステナビリティ、環境ビジネス、新建ハウジング、毎日新聞、河北新報、デーリー東北、岩手日報、マガジンハウス「コロカル」、一般社団法人地域活性化センター「平成 25 年度地域活性化事例集・再生可能エネルギーの導入と利活用」、TBS 系列「ひるおび」、NHKBS1「TOMORROW」、NHK 盛岡放送局

（3）2013 年度各地域交流会活動報告

茨城地域交流会

PV 業界は多様な問題を含みながらも、メガソーラーを中心に飛躍的な伸びを示しています。2013 年度までの累積導入量は 13.6GW に達し、FIT 制度発足 2 年目にして大いに功を奏しているといえます。茨城地域交流会は相変わらずの世話人の固定化のなか、ほぼ隔月のペースで水戸駅前のレストランを会場にし、自由闊達な議論を中心に活動してきました。

活動の主な内容は、

1．理事会報告、他地域の活動紹介、メデイア・IT からのホットな自然エネルギー＆PV など関連情報の紹介
2．近隣の PV 設置計画における費用の考察……パネル価格、工事仕様書類の近隣における情報から
3．ユニークな農地利用の PV 設置例……西高野ソーラーシェアリング発電所見学
4．今後、PV が持続的量的拡大を続けるための要件についての議論や情報収集
5．その他エネ問題（化石、シェールガス、自然エネルギー、原発、地球温暖化、古気候学）に関する各種話題

なお、今年度から世話人代表が前川から田中詔氏に交代することとなりました。

群馬地域交流会

本年度の群馬地域交流会は、世話人会の再建と新規事業および、地域財政の確立に向けた調査研究を進めることを主眼として活動を計画しました。しかしながら、すべての基礎となる世話人会の再建が、世話人の高齢化・生活環境の変化等により再建できませんでした。このことから活動は停滞してしまいました。

埼玉地域交流会……11 ページ参照

千葉地域交流会……11 ページ参照

東京地域交流会……12 ページ参照

神奈川地域交流会…12 ページ参照

山梨地域交流会……13 ページ参照

静岡地域交流会

1．自治体の環境イベントへの出展

富士市・裾野市・沼津市・掛川市の 4 自治体で昨年度と変わらず。このほか、箱根用水祭り、共立病院健康祭り、反原発ひまわり集会などへの出展とステージ電源の供給（独立型 PV とバッテリー、電気自動車の組み合わせ)、三島大社夏祭りでのバザーと展示など行いました。

2．静岡フォーラムの開催

県内東・中・西の 3 ヵ所で、エネルギー問題フォーラムを開催 (同一年度内に県内全域開催は初)。このほか、ソーラーシェアリング勉強会も開催しました。

3．市民共同発電所の建設

2 号基の完成祝いと草刈りイベント、3･4 号基の建設計画と建設資金の募集を行いました。（10 年返済の借り入れ方式で 1 口 10 万円 30 口を募集中)

4．PV 無料健康診断

会員からの希望を募り、会員宅を訪問しながらストリング別の電圧・電流の測定を行いました。8 軒中、少なくとも 3 軒で不具合の兆候が見られました。会員宅訪問は、測定や自立運転の操作を実演するなかで、会員との交流が深められることから、会員との結び付き強化に役立ちます。

5．世話人会の開催

年 8 回開催しました。さらなる世話人の拡充が求められます。

中部地域交流会……13 ページ参照

富山地域交流会

地球温暖化防止活動および PV-Net の周知拡大を目的に、セミナーやシンポジウム、イベント出展を計画していましたが、2013 年度は活動自体の実践ができませんでした。

京都地域交流会

2013 年度は当初、フォーラムやイベントの企画や出展などを計画していましたが、京エコロジーセンターと平和堂財団の助成金申請が不採択となったことから、活動資金不足のまま世話人会の呼びかけできずに活動が停滞。PV-Net 京都としての活動は実施できませんでした。一方、代表個人としては、京都会員の遊休地利用を目的とした共同発電所の検討、現地見学を実施（5 月～6 月）。シミュレーションの結果、採算性の確保は難しいと判断し、事業化は取りやめました。さらに、PV-Net 関西ブロック協議会には参加し、関西の活動理解と状況把握に努めました。

関西地域交流会……14 ページ参照

兵庫地域交流会……14 ページ参照

山口地域交流会……15 ページ参照

九州地域交流会（福岡地域交流会含む）

福岡地域交流会の代表も兼ねられていた松隈さんの突然の逝去後、体制を立て直すべく、センターの組織部や事務局と協議しているところです。

佐賀地域交流会……15 ページ参照

宮崎地域交流会……16 ページ参照

埼玉地域交流会

◆2013年度の活動の振り返り(Plan)、(Do)、(Chech)		部会・地域名： 埼玉地域交流会	記入者： 松田廣行	作成日:2014/06/15
2013年度の活動目標や活動計画 (Plan)		担当・該当企画など (Do)		各項達成度 (Check) ○で囲む・・・※
①会員拡大活動を推進	○ PV-Greenに頼るのではなく、情報提供とPV健康診断を中心に活動			1・②・3・4・5
	○ 埼玉の ホームページのリニューアル			①・2・3・4・5
②市民共同発電所設置に協賛・協力	○ 地域の団体との協力			1・2・3・4・⑤
	○ 独自の設置も検討する			1・②・3・4・5
③節電・省エネの推進	○ 節電行動アンケート実施と分析、会員へのフィードバック			1・2・3・④・5
	○ 相談会・講演会への参加を促し、賢い太陽光発電ユーザーを育成			1・2・③・4・5
④ 各種団体とのイベント開催	○ 県・自治 体と協働・連携してイベントに参加			1・2・3・4・⑤
	○ 見学会・フォーラムの開催による、会員の交流の場の提供			1・2・3・④・5
⑤ 世話人会の定期開催	○ 毎月、月初めの土曜日の定例開催			1・2・3・4・⑤
	○ 埼玉地 域交流会の年間活動推進と報告			1・2・3・4・⑤

各目標や計画で「ここが変われば成功する」という課題や、次年度への課題 (Check)

①の「PV-Greenに頼るのではなく、情報提供とPV健康診断を中心に活動」については、今後は設置後8年～15年の人の現状を把握し、情報を提供して、フォローアップをしていく。
①の「埼玉の ホームページのリニューアル」については、これまでのHPのプロバイダーが明確でなく、現状のPC事情にあったシステムを考えて、リアップする。

②の「独自の設置も検討する」については、コンセンサスが足りなかったので、地域交流会の会員と、盛り上げる活動をしていく。

③の「相談会・講演会への参加を促し、賢い太陽光発電ユーザーを育成」については、さらなる躍進のためには、ニーズにあった方策を取り入れるための努力をしていく。

活動記録 (＊概要を書き込み、全体像を記録してください) (Do)

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
08/世話人会	06/独立系PV製作教室開催 13/世話人会 20～21/ふじみ野住宅展示場イベント参加	03/川口リサイクルプラザまつり参加 04/日熊谷市民 活動支援センター講演実施 10/世話人会 22/川口市相談 会実施	07/世話人会 13/見学会(浮島、川崎、横浜)	06/世話人会 12/東松山環境未来フェア出展 12/川口グリーンフェスティバル出展 13/熊谷ニャオざね祭り出展 29/川口市相談会実施	09/世話人会 9～10/和光市民まつり出展 30/ストップ温暖化SAITAMAフェア&子供エコフェスティバル出展 29～06/熊谷市民団体活動の足跡展出展	14/世話人会	11/世話人会 22/、28/川越市相談会実施	01/川越市相談会実施 08/世話人会 12/川口市相談会実施	02/寄居商工会講演会・イベント出展 08/世話人会 29/埼玉地域フォーラム開催	12/世話人会	10/世話人会 17～18/熊谷エコライフフェアー出展

千葉地域交流会

◆2013年度の活動の振り返り(Plan)、(Do)、(Chech)	部会・地域名：千葉地域交流会	記入者： 宮下朝光	作成日:2014/05/23
2013年度の活動目標や活動計画 (Plan)	担当・該当企画など (Do)		各項達成度 (Check) ○で囲む・・・※
地域フォーラムの開催(自治体との連携)	銚子市で開催		1・2・3・(4)・5
世話人会	毎月(原則)		1・2・3・4・(5)
イベント出展(団体との連携)	エコフェアいちはら(市原市)、エコメッセ2013 in ちば、エコメッセ環境協働創造市＝宮下、自然エネルギーを広めるネットワークちば(Renet Chiba)＝宮下、新美、エコプロダクツ2013、アースデイちば		1・2・3・4・(5)
職業能力開発促進センターへ講師派遣	「住宅エコ電気設備施工」講座、「太陽光発電セミナー」＝平間		1・2・3・4・(5)
他団体の勉強会や学習会などへ講師派遣	地産・地消の太陽光発電を考える学習会(エコライフあびこ)＝新美、ソーラーライトスタンド作り方教室＝新美 、パルシステム千葉PV勉強会＝平間、新美、宮下		1・2・3・4・(5)
世話人の拡充(特に年代の若い人)			1・(2)・3・4・5

各目標や計画で「ここが変われば成功する」という課題や、次年度への課題 (Check)

・フォーラムへの参加者を増やすことが課題。他団体との協働(広報面の強化、動員)で改善が期待できる
・世話人の高齢化が進んでいる。30代、40代の新規世話人獲得が課題

活動記録 (＊概要を書き込み、全体像を記録してください) (Do)

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
エコライフあびこ勉強会 エコフェアいちはら 世話人会	Renet定例会 パルシステム千葉学習会 世話人会 PV-Net総会		Renet定例会 職業能力開発促進センター 世話人会 エコメッセ2013 in ちば	Renet定例会 太陽光発電フォーラム2013 in 銚子 世話人会	「こだいらソーラー」見学 職業能力開発促進センター 世話人会	エコプロダクツ2013 世話人会	Renet定例会 世話人会	Renet定例会 世話人会	Renet定例会 職業能力開発促進センター 世話人会	Renet定例会 世話人会	Renet定例会 職業能力開発促進センター アースデイちば 世話人会

※全く達成できなかった：1　達成できないことが多い：2　最低限達成できた：3　かなり達成できた：4　十分達成できた：5

東京地域交流会

◆2013年度の活動の振り返り(Plan)、(Do)、(Chech)	部会・地域名: 東京地域	記入者: 高柳良大	作成日:2014/05/23
2013年度の活動目標や活動計画 (Plan)	担当・該当企画など (Do)		各項達成度 (Check) ○で囲む・・・※
地域密着型ソーラー普及事業モデルづくり …地域の市民団体と連携し、ソーラー啓発活動と、市民共同発電事業、個人住宅設置支援事業を進める	①啓発事業(入門セミナ、パンフ領布)、		1・2・3・(4)・5
	②ソーラー普及事業(出資型市民ソーラー支援事業)、		1・2・3・(4)・5
	③自治体との協働(セミナー共催)		1・(2)・3・4・5
活動PR・会員拡大 … PV-Netの活動を対外的にPRし、会員を拡大する	①イベント出展(展示訴求見直し、会員拡大)		1・2・3・(4)・5
	②ポスト・インに改めて取り組む(100軒)		(1)・2・3・4・5
組織活性化 … 一般会員とのコミュニケーションを強化し、会員の希望に沿った企画を実施することにより満足度を高め、組織基盤を強化する。	①情報伝達(連絡網整備、情報発信強化)		1・2・(3)・4・5
	②地域企画(学習会・見学会、フォーラム東京)		1・2・3・(4)・5
	③財政強化(協賛依頼)		1・2・3・4・(5)

各目標や計画で「ここが変われば成功する」という課題や、次年度への課題 (Check)

・地域と本部の役割分担を明確にすることが必要。
・今期、東京地域はソーラー普及事業を重点的に活動を行ってきた。成果ができつつあるが、情報網やマンパワーは課題である。
・ソーラー普及事業はPV-Net全体で早急にルール作りが必須と考えるが、地域には見えてこない
・イベント出展は会員拡大にはつながらない。(選択と集中を進める。)

活動記録 (＊概要を書き込み、全体像を記録してください) (Do)

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
6/1-6/2 ｴｺﾗｲﾌﾌｪｱ 6/8世話人会	7/5世話人会 7/24 RE2013 7/24 総会	8/5世話人会	9/7小平ｴｺﾌｪｽﾀ・世話人会 9/16・9/21 ｸｰﾙﾈｯﾄ講習会 9/29小平商店街ｲﾍﾞﾝﾄ 9/25西武信金助成金贈呈式 9/21川口市講演会	10/9 世話人会 10/19武蔵野市ｴｺｲﾍﾞﾝﾄ 10/26豊島区大明館	11/10 日野市講演 11/12世話人会	12/10世話人会 12/11-14ｴｺﾌﾟﾛﾀﾞｸﾂ	1/7世話人会	2/4世話人会 2/23ｸｰﾙﾈｯﾄ講演	3/3世話人会 3/4ｸｰﾙﾈｯﾄ講演 3/15大田区ｴｺｲﾍﾞﾝﾄ 3/16大集合 3/16日野水車ﾌﾟﾛ 3/30学習会・世話人会		5/8世話人会 5/10市民発電連絡会

神奈川地域交流会

◆2013年度の活動の振り返り(Plan)、(Do)、(Chech)	部会・地域名: 神奈川	記入者: 横 谷 公 雄	作成日:2014/6/5
2013年度の活動目標や活動計画 (Plan)	担当・該当企画など (Do)		
1)会員ならびに一般設置者に対して「PV健康診断」の仕方についてアドバイスをする	PV健康診断が回復しないので、、近隣比較の勉強会を行う		1・2・③・4・5
2)太陽光発電ならびに太陽熱の利用などの自然エネルギー利用と省エネのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	太陽光発電については説明・相談会をつねにもうけたが、熱は不足		1・②・3・4・5
3)県下の各種イベントに参加して自然エネルギーの普及及び活用、管理などを説明	アジェンダの日2013に出展		1・2・3・④・5
	ひらつか環境フェアに出展、ほどがや区民まつりに出展		1・2・3・④・5
	さがみはら環境まつり、ほどがやまなぶんまつりにそれぞれ出展		1・2・3・④・5
4)会員および一般市民と交流や支援活動	ワークショップ「出前発電所をつくろう！」を5回開催		1・2・3・4・⑤
	青少年のための「科学の祭典」に参加出展		1・2・3・④・5
	フォーラム神奈川2014の開催。小学校への出前授業を行う。		1・2・3・4・⑤

各目標や計画で「ここが変われば成功する」という課題や、次年度への課題 (Check)

県下各地で開催される環境イベントの参加して
○昨年も書いたが、会員・世話人の高齢化で、世代交代が求められるが思うに任せず、人手不足である。 ○県が主催のイベントで、出展料をを徴収するが、NPOは免除してほしい。
○太陽光発電について、名前を知らない人はいないようだが、設置に対する関心を示す人が少ない。システム価格がかなり安くなっているのになぜか。「笛吹けど踊らず」
会員との交流について
○見学会を計画するにあたって、見学希望地と日程調整が難しくくろうした。○会員との連絡について、予算がないので、通信費が十分捻出できず、回数が増やせないのは困る。
毎年開くフォーラムについて
○毎年1月下旬に開催しているが、会場借用料の安い公共施設は、1年前から県または市の講演を取り付けて予約をしなければならず、すでに埋まってしまいなかなか確保できない。
○講師料についても、予算上十分出せないと希望する講師を呼ぶことは難しい。
独自の事業計画
○PV健康診断が長らく頓挫しているので、会員の不満がつのった。そこで、唯一可能な近隣比較を利用しようと勉強会を開いたところ好評だった。

活動記録 (＊概要を書き込み、全体像を記録してください) (Do)

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
6月①今年に限り、5月にアジェンダの日行った。	7月○ひらつ環境フェア ○ワークショップ「出前発電所を	8月○青少年のための「科学の祭典」 ○第3回「出前発電所をつくろう	9月○相模原環境まつりに出展	10月○ほどがや区民まつり ○見学会:愛川太陽光発電所他を見学	11月○毎月世話人会を開く	12月○○第4回ワークショップ「出前発電所をつくろう！」 ○○ほどがやまなぶんまつりに出展	1月○「フォーラム神奈川2014」 ○近隣比較勉強会を開催	2月○○第5回ワークショップ「出前発電所をつくろう！」 開催	3月○毎月世話人会を開く	4月○毎月世話人会を開く	5月○毎月世話人会を開く

※全く達成できなかった：1　達成できないことが多い：2　最低限達成できた：3　かなり達成できた：4　十分達成できた：5

山梨川地域交流会

◆2013年度の活動の振り返り～Plan、Do、Chech～	部会・地域名　山梨	記入者：芦澤公子	作成日2014/5月
◆2013年度の活動目標や活動計画（Plan）		◆担当・該当企画など（Do）	◆各項目の達成度（Check）
1.市民共同発電所事業～共同発電所の有効活用～			
LED工作教室の開催		中村豊春	1・2・3・④・5
見学会または学習会の開催		芦澤泰徳	1・2・③・4・5
2. 組織強化～PVネットの周知～			
PV－net、PVGreenの周知		芦澤泰徳	1・2・3・④・5
PV-netのメリット集約・会員の拡大		中村豊春・前島弘一	1・②・3・4・5
世話人会の開催		芦澤公子	1・2・③・4・5
3.自治体他各種団体との連携			
他団体とネットワークして、今後の共同発電所設置の模索、災害時の有効活用の啓発等行う		芦澤公子	1・2・③・4・5
ライトダウン甲府バレーとの協働		中村豊春・小林延雄	1・2・3・④・5
各種プロジェクトなどへの参加		芦澤公子	1・2・③・4・5

◆各目標や計画で「ここが変われば成功する」という課題や、次年度への課題（Check）

1.市民共同発電所事業～共同発電所の有効活用～
新たな市民協働発電所の設置のあり方を考える。ファンド等の研究が課題。

2. 組織強化～PVネットの周知～

PVGreenを周知してさらに利用が進めば会員拡大につながると思う。ヴァンフォーレ甲府等、知名度の高い人気スポーツ、イベント等の場でまた利用されるよう働きかけたい。

3.自治体他各種団体との連携
太陽エネルギーは災害時にも強いことを理解してもらい、自立型PV蓄電システムを災害用備蓄品に入れるなど提案していきたい。
連携・ネットワークの拡大：他団体の活動と少しでも共通点が見つかれば、協働のアイディアを投げかけていくと連携しやすいと考える。

◆活動記録（＊概要を書き込み、全体像を記録してください）（Do）

6月	7月	8月	9月	10月	11月		1月	2月	3月	4月	5月
	31日ヴァンフォーレ甲府試合前に場外での小瀬エコブース担当	17日サッカーJ1ヴァンフォーレ甲府ホームゲームにてPVグリーン使用。スタジアムから「スカパー!」に出演して周知			2日ライトダウン甲府バレー八代会場担当		1日 8日みどりの学校国母おひさま発電所10周年イベントにてPVネット公民館協働発電所発表				24日小瀬エコブースにてPVネット啓発、ソーラーカー体験等 24日 世話人会

中部地域交流会

◆2013年度の活動の振り返り（Plan）、（Do）、（Chech）	部会・地域名：　中部地域交流会	記入者：　武田善明	作成日：　2014/5/24
2013年度の活動目標や活動計画（Plan）	担当・該当企画など（Do）		各項達成度（Check） ○で囲む・・・※
1.省エネ生活を楽しむ、つながる、議論を深める。	三浦		1・2・3・④・5
2.一枚の太陽光発電の利用。	武田		1・2・③・4・5
2-1.via　サン・エコ・ライフ学校の運営	野原		1・②・3・4・5
2-2.独立系PV普及拡大	三浦		1・②・3・4・5
3.地域での交流会や講演会の開催	三浦		1・2・3・④・5
3-2.中津川・大垣交流会の確立	三浦		1・②・3・4・5
4.節電の工夫と持続的な省エネの工夫、交流	武田		1・2・3・④・5
5.相談員体制の充実	吉田		1・2・③・4・5
6.展示会やイベントに参加	三浦		①・2・3・4・5
7.中津川自然エネルギーの会との連携を深める。	三浦		①・2・3・4・5

各目標や計画で「ここが変われば成功する」という課題や、次年度への課題（Check）

この一年は世話人の拡大で「精一杯」の状態でした。一枚の太陽光パネルに接続するインバーターが燃えたり、サン・エコライフ学校校長が病気で倒れる。
自治体との窓口を受け持っていた事務局担当が引越しと組織維持に追われる苦難の一年でした。
それでも、新しい世話人と和気藹々、月一回世話人会が開催できた喜びに浸っています。
独立系の普及拡大は果たせませんでした。しかし、4月に開催した「暮らし方交流会」は、多くの示唆を与えてくれました。太陽の恵みに感謝して生きようとすれば、
家電製品に囲まれた不自然な暮らしを見直したい。もったいない、手間ひまの実践が確かな未来を切り開く糸口になるかもしれない。
であれば、独立系PV普及拡大の課題も、暮らしを見直す一つの「面白いツール程度」と理解できます。現に中部の仲間は、身のまわりから一つひとつ家電製品をなくしていく
過程で、40Aの暮らしが30Aになり、いま20Aを楽しんでいます。独立系PVが日常の暮らしから必要とされてくるのは、10A、5Aへと向かう過程のような気がします。
私たちが暮らしを見直そう、未来の子どもたちにとって住みやすい地球を残したいと願ってきたのは、「支え合う社会の再建」を創造したいからこそのように感じています。

活動記録（＊概要を書き込み、全体像を記録してください）（Do）

	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月

※全く達成できなかった：1　達成できないことが多い：2　最低限達成できた：3　かなり達成できた：4　十分達成できた：5

関西地域交流会

◆2013年度の活動の振り返り(Plan)、(Do)、(Chech)	部会・地域名：大阪地域交流会 関西地域協議会	記入者：森岡秀幸	作成日:2014/6/12
2012年度の活動目標や活動計画（Plan）	担当・該当企画など（Do）		各項達成度（Check） ○で囲む・・・※
・市民共同発電所の普及を図る啓発活動(セミナー)と会委員交流会	南里、森岡、関西地域協議会		1・2・3・(4)・5
・地域交流会の自立を図るための資金獲	南里、森岡 （大阪府から助成獲得）		1・2・(3)・4・5
・個人会員の参加のもとに活動の活性化を図る仕組みづくり	関西地域協議会		1・(2)・3・4・5
・省エネ、創エネの啓発活動	南里、森岡、西田(奈良) （ソーラークッカー実習。 ミニ講演会は実施できず）		1・2・(3)・4・5
・各種環境団体との連携による活動の活性化	南里、森岡、岸本 （泉北防災訓練、豊中環境展などに参加）		1・2・(3)・4・5
・センター事務局との情報の共有と活動の連携強化	南里、中村(京都) （G電力、市民共同発電等）		1・(2)・3・4・5
・健康診断のシステム回復までの対応策の検討	南里、森岡、西田(奈良) （PV-Dog講演会他）		1・2・(3)・4・5
・関西地域の組織改編(関西協議会、大阪、滋賀、奈良地域協議会の設立)	関西地域協議会		1・2・3・(4)・5

各目標や計画で「ここが変われば成功する」という課題や、次年度への課題（Check）

①法人全体の活動目標や方針が各地域で共有されていない。(各地域間で温度差があり、法人としての一体感を失わせているように受け止めている意見が払しょくできていない)　現在の行政の市民サービスは、いわゆる要求型のサービスには限界があり、新たな公共と呼ばれるように、市民が主体的に参加できる"協働型"の参画の仕組みづくりを行っている。NPO(本法人)もこの仕組みづくり、動きを早期に創りださないといけないと考える。

②法人本体が財政的に厳しい状態が続き、地域への分配も十分でなく各地域で活動が停滞している。自立する体制を支援、構築する必要がある。

③設立10周年を迎え、当初からの状況が大きく変化して来ており、会員の意識にも変化があると考えられる。こうした状況に対応できる目標・方針を会員と共有し、さらなる発展に取り組むべきであるとの声が根強い。このことが新会員獲得やそれに伴う財政基盤の改善、新法人認定への移行による社会的認知度向上にもつながると考える。

④ ①～③の総合的振り返り、次年度の目標設定をする場をきちんと設けることと、その評価の共有が必要。 交流会の時期を再検討することも。

⑤ ①～③を総合的にパッケージとして運営・実施するための外部のクリニックなどもうまく活用することも検討。

活動記録（＊概要を書き込み、全体像を記録してください）（Do）

6月/ 宝塚市・PVセミナー参加	7月/センター事務局交流会	8月/ 関西世話人会	9月/会員交流会・啓発セミナー(助成事業) 関西地域協議会、大阪地域交流会、滋賀地域交流会、奈良地域交流会設立 第1回協議会	10月/大阪府協働発電ﾋﾟｱﾘﾝｸﾞ 環境展出展準備	11月/泉北防災訓練参加(パネル展示 助成事業) 豊中市民環境展参加(パネル展示、ソーラークッキング体験助成事業) 関西協議会定例会	12月/健康診断システムセミナー実施(助成事業)	1月/宝塚市・ミニ独立系キットづくり	2月/	3月/	4月/助成金申請(大阪府、箕面市)	5月/関西協議会定例会

兵庫地域交流会

◆2013年度の活動の振り返り(Plan)、(Do)、(Chech)	部会・地域名：兵庫地域交流会	記入者：河原一郎	作成日:2014/6/22
2012年度の活動目標や活動計画（Plan）	担当・該当企画など（Do）		各項達成度（Check） ○で囲む・・・※
(活動の目標) 太陽光発電を主とした再生可能エネルギーの普及を一般県民に訴え、LEDの普及も含めてCO2オフセット、強いては地球温暖化防止に貢献すべく、有志を集めて勉強会を立ち上げ、一般県民の意識高揚活動を図る。			1・2・(3)・4・5
活動計画1：太陽光発電設備の普及のためのフォーラム開催	担当：世話人	H.25 12/1 自然エネルギーフォーラム開催 基調講演、兵庫県副知事 金澤和夫 氏	1・2・3・4・(5)
活動計画2：自然エネルギーの普及をテーマとした講演会、見学会開催	担当：世話人	H.25 10/15 見学会開催①兵庫県まちづくり技術センター②神戸市東水環境センター H.26 3/22 波力発電講演会開催 講師、神戸大学名誉教授工学博士 神吉博氏	1・2・3・4・(5)
活動計画3：LEDの発光原理を勉強するためのLEDライトの製作講習会開催	担当：世話人	H.25 10/12 LEDライト製作講習会開催 講師、北方龍一代表	1・2・3・4・(5)
活動計画4：太陽光発電設備の設置相談を受ける	担当：世話人	ひょうご環境創造協会太陽光相談指導センターの現地相談制度にコンサルタントとして協力	1・2・3・4・(5)
活動計画5：兵庫地域交流会会員を中心に、太陽光共同発電設備設置計画立案	担当：世話人	平成25年9月より、共同発電所設置に関する検討を行い、計画を立案した	1・2・3・4・(5)

各目標や計画で「ここが変われば成功する」という課題や、次年度への課題（Check）

(課題)①再生可能エネルギーに関しては一般県民の認識がまだまだで、原発の代替えや補助と云った認識である。②会合には年配者の参加が多く若年層を取り込むのが難しい。

③我々のフオーラム、講演会等への参加案内をを広く県民に通知するのが難しい。TV、新聞等のマスコミはニュース性に乏しいとあまり協力的でない。

④イベント開催における案内ちらし・資料作成、参加おしらせの通信費、世話人の交通費等、活動資金不足。

(課題に対する解決策)

①②大学(神戸大学工学部)の研究室とも何らかの形で連携すべく模索中。③NHK、神戸新聞等と年間計画について打ち合わせ、協力して貰うよう、要請した。

④安定した収入源としての収益事業が必要

活動記録（＊概要を書き込み、全体像を記録してください）（Do）

6月 ・世話人会(15日) ・PVネット兵庫の紹介パンフレット制作	7月 ・ホームページに我が家の発電所紹介ｺｰﾅｰ設置	8月 ・世話人会(24日) ・PVRessQ講習会に参加	9月 ・世話人会(21日)	10月 ・世話人会(12日) ・LED製作講習会開催 ・再生エネ見学会開催	11月 ・世話人会(17日)	12月 ・自然エネルギーフォーラム開催	1月 ・世話人会(12日)	2月 ・世話人会(22日)	3月 ・世話人会(22日) ・波力発電講演会開催	4月 ・世話人会(19日) ・神戸でんでんフェスで活動報告	5月 ・世話人会(23日) ・共同発電所見学会開催

※全く達成できなかった：1　達成できないことが多い：2　最低限達成できた：3　かなり達成できた：4　十分達成できた：5

山口地域交流会

◆2013年度の活動の振り返り(Plan)、(Do)、(Chech)	部会・地域名：山口地域	記入者：　溝田忠人	作成日：2014/　6月13日
◆2013年度の活動目標や活動計画（Plan）	◆担当・該当企画など（Do）		◆各項達成度（Check） ○で囲む・・・※
各種イベントにおけるミニソーラーカー工作指導			①・2・3・4・5
地域世話人会議(メール会議を含む)			1・2・3・4・⑤
会員への連絡			1・2・3・4・⑤
			1・2・3・4・5
			1・2・3・4・5
			1・2・3・4・5

各目標や計画で「ここが変われば成功する」という課題や、次年度への課題（Check）

世話人代表が会計処理をするのみで、ほかのことを何もできない。宇部地域の活動は、宇部市地球温暖化対策ネットワークのイベントに協力する形でのみ行われた。

周南地区ではミニソーラーカー工作イベントを2回行った。ミニソーラーカー工作イベントでは毎回30台ほどのミニソーラーカーを子供たちに作らせて、

好評であり、山口市の環境サークルなどに指導も行っている。

工作イベントは、PV-Netからの入金が不明なので予算が立てられず、他団体の費用で行うことにした。
現状では、世話人会を1っ回やればなくなる資金しかないので、財政はそれに使う

。

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
	7日宇部市ときわ公園ごきげんフェスタ参加;7月30日充電式ミニソーラーカー工作イベント。	24日集まれキッズハッピーエアポートにてジェット機型ソーラーカー工作;27日充電式ソーラーカー工作第2回イベント		20日やまぐちいきいきエコフェアミニソーラーカー工作イベント;27日セミナーパークふれあいフェスタミニソーラーカー工作	3日宇部まつりミニソーラーカー工作イベント						

佐賀地域交流会

◆2013年度の活動の振り返り(Plan)、(Do)、(Chech)	部会・地域名：　佐賀	記入者：　西森秀夫	作成日：2014/6/28
2012年度の活動目標や活動計画（Plan）	担当・該当企画など（Do）		各項達成度（Check） ○で囲む・・・※
会員がPV－Netの活動やPV健康診断についてより深く理解できるよう努める			①・2・3・4・5
HPを充実し、会員との情報交換を図るよう努める			①・2・3・4・5
会員自身、自立運転の理解を深める			①・2・3・4・5
ソーラーマイレージの取り組みを紹介し、広く理解を深めるよう努める。			①・2・3・4・5
HPに紹介しソーラーマイレージの理解を図るよう努める			①・2・3・4・5
定期的に世話人会を開催する。			①・2・3・4・5
新たに世話人になってくれる会員をさがす			①・2・3・4・5
			1・2・3・4・5

各目標や計画で「ここが変われば成功する」という課題や、次年度への課題（Check）

平成25年度も佐賀地域交流会は休眠状態でした。
どなたか、世話人として会の音頭を取っていただける方はいらっしゃいませんか。
連絡先TEL0952-66-3638

活動記録（＊概要を書き込み、全体像を記録してください）（Do）

6月	7月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月

※全く達成できなかった：1　達成できないことが多い：2　最低限達成できた：3　かなり達成できた：4　十分達成できた：5

宮崎地域交流会

◆2013年度の活動の振り返り(Plan)、(Do)、(Chech)	部会・地域名:宮崎	記入者:楠見　博	作成日:2015/5/23
2013年度の活動目標や活動計画（Plan）	担当・該当企画など（Do）		各項達成度（Check） ○で囲む・・・※
PV－NET会員の拡大	役員全員		1・2・(3)・4・5
宮崎県・宮崎市・都城市・日南市・川南町等との連携イベント	役員全員		1・2・3・4・(5)
太陽光発電の相談窓口常時開設	役員全員		1・2・3・4・(5)
太陽光発電の自立運転と省エネの啓発	役員全員		1・2・3・(4)・5
太陽光発電の屋根貸し事業(ホームページに遊休地・屋根貸しする物件の情報を提供し、施工業者とのマッチングを行う)	役員全員		1・2・3・4・(5)
省エネセミナーの開催	役員全員		1・2・3・4・(5)
			1・2・3・4・5
			1・2・3・4・5

各目標や計画で「ここが変われば成功する」という課題や、次年度への課題（Check）

・宮崎県地球温暖化防止活動センターと宮崎県環境情報センターと連携してPV－GREENの説明会を実施していく。

・生活スタイルの見直し、省エネの重要性について啓発していく。

・災害時の太陽光発電の活用法について説明会を実施していく。

・太陽光発電の屋根貸し事業(遊休地・屋根貸しする物件をホームページに情報提供し、施工業者とのマッチングを行う。)・太陽光発電相談窓口をホームページで常時受付する。

活動記録（＊概要を書き込み、全体像を記録してください）（Do）

6月　川南町の子どもフェスティバル 省エネセミナー	7月　グリーンパークえびのサーマースクール 太陽光発電相談会	7月　日南市の環境まつり 宮崎市住吉児童館科学教室	9月　小規模発電セミナーと小規模ソーラーマッチング会	10月　ドイツのマーティン教授の講演会　宮崎県トラック協会環境まつり 都城市の環境まつり	11月　MWソーラー見学会　太陽光発電相談会	12月　宮崎市北地区センターのクリスマス会 太陽光発電相談会	1月　庄内町町区自治会の環境勉強会・ソーラーバッタ製作教室	2月　日南市環境マイスター講演 太陽光発電相談会 省エネセミナー	3月　太陽光発電相談会	4月 役員会議	5月 総会

※全く達成できなかった：1　達成できないことが多い：2　最低限達成できた：3　かなり達成できた：4　十分達成できた：5

（4）2013 年度各専門部会活動報告

	活動方針	評価	実績・コメント
相談室	PV 健康診断システムの再構築 ①独自の診断システムの併用検討 ②相談員研修会による再教育・再周知	×	PV 健康診断が復旧することを前提に活動計画を組んでいましたが、復旧は進まず、ほとんどの計画が未達となりました。 事務局でのソーラーヘルプデスク、各地域での相談活動（イベント、講習会）は継続的に行われています。 12 月に開催した相談員対象の PV 特性計測講習会は、多くの参加者があり、有意義なものとなりました。また、一部の会員宅で不具合が発生しているシステムについての特性計測も試行的に行うことができました。
	管理ページの地域アクセス ①地域アクセスの普及推進 ②PV カルテ未登録者の解消活動 ③ソーラーヘルプデスクの地域分散対応	×	
	相談員の人材確保 ①地域養成講座の支援 ②センター支援機能・ツールの充実	×	
	相談活動・ソーラーヘルプデスク	○	
組織部	会員 3,000 名組織の達成	△	5 月末時点で、会員数は 2,700 名（賛助会員 70 名含む）。全国に PV 設置者が 150 万世帯の時代、まだまだ増やすことは可能であることから、常に会員拡大を意識し、具体策の意見交換を続けていきます。
	未組織地域の組織化	○	東北と岡山で準備会の集いが行われるなど、新しい芽が生まれた年となりました。九州・四国では来期の組織化に向け、準備を始めています。
	地域活動のサポート	○	積極的に地域に足を運び、Face to Face のコミュニケーションを取るよう心がけました。茨城地域では代表交代が行われ、新たな体制で動きだしました。
	地域活動を全国で共有するための交流・広報強化	○	地域のイベントは、事務局の事前の告知協力を強化し、早いタイミングで HP や Facebook で内容を紹介できました。
財政部	会費徴収の適正化	×	効率的な財政運営に努めてきましたが、新たな事業収益の確保もままならず、厳しい財政状況を好転させるには至りませんでした。各地域交流会会計担当者による NPO 法人会計に関する学習の場の設定も、検討不足により実現できませんでした。
	補助金の獲得	×	
	地域会計担当対象の NPO 法人会計研修会の実施	×	
PV-Green 事業部	現状のグリーン電力証書市場の動向を見極め、 先手を打つ具体的施策を固める	△	他社が証書事業から撤退するなか、PV-Net は継続の意思を固めましたが、現状の在庫を減らす妙案はまだありません。
	G 電力証書の意義と仕組みを PV-Net 内で共有し、会員自らが環境価値の考え方を周囲に広め、利用・販売していく意識を持ってもらうための資料やフォロー体制を準備する	△	交付に関する問い合わせがあった際には、販売が遅れている状況を伝えるとともに、PV-Net 会員自らも普及や販売を行うという PV- Green の趣旨を伝え、協力の要請を行いました。
	在庫の活用・整理の対策を進め、増大する事務作業の改善を行う	△	チームワークの強化とファイルデータの一元管理で業務の効率化を図りました。
	主催イベントや、参加依頼のあったセミナー・イベント等で PV-Green の利用を要請する	○	センター主催および参加イベントで、約 1,500kWh の PV- Green の販売を行いました。
	会員に向けて、販売状況を会報等で報告する	△	報告は行っているものの、問い合わせが多く、わかりやすい報告を目指します。
	年間販売量 200 万 kWh	×	年間の販売量は前年よりも増えたものの、130 万 kWh にとどまりました。
普及広報部	会報誌の充実と季刊化、ホームページへの掲載	△	HP への掲載は実施したものの、季刊化については実現できませんでした。速報性がの求められる情報についてはネットを活用し、会報は頻度を増やすよりも、会員のみが得られる情報を充実させ、その付加価値を高めていきます。
	ホームページのさらなる充実	○	センターや地域で開催されるイベントの告知や報告については、年間を通じて積極的に発信を行いました。また、一般向けのメールマガジンの配信を試験的に導入するなど、これまでにない試みも実施しました。市民ファンドサポートセンター専用の HP も、市民発電所の資金調達の獲得に大きく貢献しました。
	自然エネルギー関連イベントの開催・参加	○	さまざまな催しを通じて PV-Net の活動や自然エネルギーの活用方法について普及・啓発を行いました。イベントは会員有志が運営をサポートしており、会員同士の交流や連携、相互扶助の意識を深める機会にもなっています。

3 号議案　2014 年度活動方針

（1）大方針

太陽光発電システムの価値と質を高める活動を展開していく

3・11 を経験し、市民の中にこれまでのエネルギー消費の受け身の在り方を問う意識転換が起こったことと、全量固定価格買い取り制度の導入により、太陽光発電の普及が加速度的に進んでいます。普及を最優先にして 10 年以上も前から活動してきた私たちには歓迎する反面、その普及の質を問う活動が強く求められる時代になっています。

FIT 法制定後、土地の争奪戦を繰り広げ、投資目的に建設されたメガソーラーは地元への貢献がない点が浮き彫りになっています。それに対して、各地で地元還元を含めたさまざまなテーマを持った発電所の導入へと転換が起き、規模としても 50kW 前後を中心に地元の人々が共同の所有者や出資者となって発電所を建設する動きが見られるようになりました。地域資源から得られた「利潤」は、地元を中心に還元されるべきという「里山資本主義」的な観点が主流となってきました。単に量ではなく設置の質が求められている部分であり、PV-Net が提唱し、目指してきた方向性のひとつです。

住宅用太陽光発電は、価格競争が激しくなり、実績のある事業者や地元密着型の堅実な事業者が、住宅用から手を引き始め、一方で未熟な事業者が安易に参入する面も多くあり、設置されたシステムのメンテナンス部分で不安が残ります。なかでも、設置して数年後に起こる雨漏りや経年劣化などの潜在的トラブルや、20 年以上屋根の上に載せ続けるシステムは、発電量の維持だけではなくシステムの安全性の確保も課題としてあげられてきています。これらのことから、今年度は消費者側からの視点からだけでなく、自然エネルギー生産者としての観点からの活動を検討し、取り組みます。

そして、システム保全が大前提であるなかで、単に経済利潤を得る道具としてだけでなく、太陽光発電システムの持つ多様な価値、発電者としての誇り、人々の笑顔の循環に繋がる運用・活用法を検討・作成し、ソーラーライフをテーマとした活動の中で伝えることにも取り組みます。

今年度はこうした、システムとその設置に関する技術・技能の質と価値を高める活動に注力し、PV-Net ならではの存在感を示していくことを目指します。

また、設置者が飛躍的に増えるなかで PV-Net 会員が比例して伸びていない点にも焦点を当て、10 年という実績がより専門的な活動と情報発信を可能にしてきた一方で、新たな設置者への初歩的でわかりやすい情報提供が不足していた面を反省し、PV−Net 活動をより簡易でわかりやすい情報提供に尽力し、新規会員の獲得を目指していきます。

（2）活動面での重点活動

太陽光発電システム取扱いに関する質を向上させるための、メンテナンスについての調査・研究を実施します。システム保持に欠かせない PV 診断の推定発電量表示を復活させ、近隣比較とともに、会員を中心に利用率を高めます。また、災害時の取り扱いに関する知見を新たに検討し、情報提供を行います。加えて、2012 年度から提唱しているソーラーライフ――、太陽光を中心に豊かな太陽生活を実践するための各種講座を開催するとともに、初心者向けのわかりやすい情報発信にも努め、多くの PV 設置者を巻き込む活動を目指します。

そして、地域市民主導型の共同発電所設置サポートを通じて、自然エネルギーの地産地消、地域経済の活性化、地域の人と人、笑顔を繋げる活動を展開し、発電システムの導入によって得られる複合的な価値を高める活動を実施していきます。

1．太陽光発電のシステムメンテナンスの徹底・拡大

① 診断システムの普及と利用者の拡大

センター：推定発電量表示の復旧、近隣比較の活用広報、PV カルテの充実

地　域：PV 診断システムの活用促進、近隣比較の活用促進、PV カルテの登録活動（10 名/各地域）

② 10 年を超えたシステム保有会員宅の太陽光発電の調査

センター：10 年を超えたシステム保有者の会員宅調査、メンテナンス方法のガイドライン作成

地　域：会員宅調査の実施

③ 非常時（火災・災害時）にシステムを正しく取り扱うためのパンフレットの作成

センター：パンフレットの作成、補助金申請

地　域：パンフレット広報・配布

④ 発電システムに関する各種講座の開催

センター：メンテナンス講座、システム標準化講座の開催（1 回／年）

地　域：講座への参加・募集呼びかけ

2．ソーラーライフの提唱・普及

① ソーラーライフの普及広報活動

センター：ホームページコンテンツの充実、自然エネルギー学校の開催（小諸エコビレッジ、野田村各 1 回）
地域の講座開催支援

地　域：ホームページコンテンツ情報の提供、独立系 PV ワークショップの開催

② グリーン電力証書の積極的活用の推進

センター：グリーン電力証書の販売（150 万 kWh）及び販売支援

地　域：グリーン電力証書の販売（5000kWh／各地域）

3．地域・市民共同発電所の普及サポート

センター：野田村に 2 号機の設置サポート、その他全国で 4 件のサポート実施

地　域：３件のサポート実施

（3）組織運営面での重点活動

地域、センターがそれぞれで自立的な活動を展開していくなか、地域とセンター、そして地域間連携が活動の質を上げるために重要になってきています。情報共有面だけでなく、共に汗を流す協働活動にも改めて取り組んでいく方向です。

1．地域とセンターの連携強化

センター：関東ブロック会議の開催（2 回／年）、各地ブロック会議への参加
協働事業の実施（助成・委託事業の共同実施）
地　域：関西ブロック会議の開催、関東ブロック会議への参加、協働事業の実施

2．会員拡大

センター：会員獲得（新規個人会員：200 名、賛助会員：10 団体／年）、会員獲得支援
地　域：会員獲得（新規個人会員 10 名／各地）、賛助会員の獲得（2 団体／各地）

（4）2014 年度各地域交流会活動方針

茨城地域交流会

PV は世界のエネルギー政策のなかで、将来の方向を左右する重要な役割を担う政治的話題となっています。国内外の膨大な情報のなかにあって、我々の小さな組織でどんな有意義な活動ができるか。期待されている役割は何なのか。引き続き内部で議論し納得して活動していきたいと思います。昨年に引き続き、事務局の方針を念頭に、次の目標を掲げます。

１．新会員、世話人の開拓
２．PV の持続的量的拡大の要件について情報収集と考察
３．近隣の PV 設置例見学と勉強会
４．PV 設置ファンドの検討

群馬地域交流会

まずは集まることを基本とし、世話人会の再建を進めます。機会に恵まれないことも考慮し、地理的に近い世話人同士のコミュニケーションの活性化に寄与するべく、情報の提供に努力します。

埼玉地域交流会

1．会員拡大の活動を推進
　① PV 健康診断の活用と情報提供を中心に活動　② ホームページのリニューアル
2．市民共同発電所設置に協賛・協力
　① 地域の団体との協力　② 独自の設置も検討
3．長期設置者のメンテナンス支援&防火対策支援
　① 保障期限前の定期点検実施支援　② 相談会・講演会での啓蒙、展開
4．各種団体とのイベント共催
　① 県・自治体と協働連携しイベントに参加　② 見学会・フォーラムの開催による、会員の交流の場を提供
5．世話人会の定期開催
　① 毎月、第二土曜日の定期開催　② 埼玉地域交流会の年間活動推進と報告（6 月、9 月、1 月、5 月）

千葉地域交流会

1．自治体との連携による地域フォーラム（太陽エネルギー＆省エネフォーラム）の開催と
　自然エネルギーを広めるネットワークちば（Renet Chiba）が開催する定例会、企画イベントへの参加
2．イベント出展
　① エコフェアいちはら（6 月 7 日）　② 浦安市環境フェア（6 月 22 日）
　③ エコメッセ 2014 in ちば（9 月 23 日）　④ エコプロダクツ 2014（12 月）　⑤ アースデイちば（5 月）
3．職業能力開発促進センターへ講師派遣
　①「住宅エコ電気設備施工」講座（11 月、5 月）②「太陽光発電セミナー」（9 月、2 月）
4．市民エネルギーちば合同会社への協力（市民発電所づくりへの協力）

東京地域交流会

1．地域密着型の太陽光発電所普及事業の強化

前期に引き続き、地域の市民団体と連携し、ソーラー啓発活動と、市民共同発電事業、個人住宅設置支援事業を進める 。特に今期は PV-Net 全体の運営と連携して、東京地域での市民共同発電所設置の推進や独立型の PV 製作講座などで啓発活動を重点活動とする。

2．活動 PR・会員拡大

PV-Net の活動を対外的に PR し、会員を拡大する。 各展示会など来場者のニーズに合わせ、設置相談や共同発電所の提案などを通して会員の増加を図る。

3．組織活性化

会員の要望に沿った企画をフォーラム東京等で実施し会員のコミュニケーションを強化する。 また、各地の商工会議所などとも連携を図り、宣伝掲載や活動支援などで財政支援を図る。

神奈川地域交流会

1．会員へ PV カルテの登録と月別発電量の記録・登録を促す連絡をする

① PV 健康診断・近隣比較の利用推奨を PR。

② PV カルテの登録を行っていない人に向けて、カルテ登録と発電量の記録を取ることを、できるだけ行ってもらえるよう支援する。

2．県内開催の各種環境イベント等に参加し太陽エネルギーの利用の普及、啓発活動を行う

① アジェンダの日 2014（5 月 31 日～6 月 1 日） ② 青少年のための科学の祭典（8 月 3 日）に出展。

③ ひらつか環境フェア、ほどがや区民まつり、ほどがやまなぶん祭り、さがみはら「お日さま発電所」等のイベントに出展する。

3．会員および一般市民との交流・支援活動、出前講座等

① 7 月 10 日、横浜市企画の環境教育出前講座で、横浜市立高田中学校で全校生徒 355 人に対して約 1 時間の講義行う。テーマは「太陽エネルギーが地球温暖化を救う！ ～太陽エネルギーのさまざまな力を知ろう～」。10 月には横浜市立汲沢中学校でも、同テーマの講座を予定。

② フォーラム神奈川 2015（1 月 24 日）の開催。

③ ノジマメガソーラーパーク見学会（5 月）、ソーラーシェアリング実証試験場（10 月予定）。

④ ワークショップ「出前発電所をつくろう！」の第 6 回（ 9 月）、第 7 回（10 月）を開催する。

⑤ 会員の希望を聞き、10 年保証が経過、または過ぎようとしている太陽光発電システムの点検を実施予定。

山梨地域交流会

1．市民共同発電所事業 ～共同発電所の有効活用～

① LED 工作教室の開催（10 月 12 日）

② 見学会または学習会の開催（12 月～2 月）

2．組織強化 ～PV-Net の周知 PV-Green の利用普及～

① PV-Green の利用普及（通年） ② PV-net 周知・会員の拡大（通年）

③ 世話人会の開催（7 月、10 月、1 月、4 月）

3．自治体他各種団体との連系
① 他団体とネットワークして、今後の共同発電所設置の模索、災害時の有効活用の啓発等を行う
② ライトダウン甲府バレーとの協働（10 月 12 日）
③「広がれ！小瀬エコスタジアムプロジェクト実行委員会」等各種プロジェクトなどへの参加（通年）
「NPO 法人みどりの学校」と連携し、設置者の太陽光発電設備メンテナンスへの支援（通年）

静岡地域交流会

1．組織拡大目標：現在の 220 名を 300 名に早期達成を目指します。
2．東・中・西での集会開催、特に中部の組織強化に取り組みます。
3．自治体及び他団体との協働を強化し、環境イベントへの出展を拡大していきます。
4．市民共同発電所の建設及び健全な運営を「合同会社静岡市民共同発電所」とともにすすめます。
同時にそれを通じて新しいつながりを広げます。
5．あらゆる機会を通して会員との結び付きを強めます。特に会員宅へ出向く健康診断は効果的です。
本年も実費をいただくことを原則に実施します。
6．世話人会の強化拡大に努めます。

富山地域交流会

1．地球温暖化防止活動
① いみず地球温暖化防止活動推進員ネットワークとの共催で、
エコライフの実践に向けた「勉強会＆交流会」を開催（7 月 12 日）
② シンポジウム開催「太陽光発電のメリット、デメリット、不具合事例を知る（仮称）」（10 月 4 日）
富山県＆とやま環境財団の後援を申請予定
③ ひみ里山杉活用協議会主催・地産地消「ひみ里山杉」新月伐採体験・見学会」を後援（11 月 1 日）
2．PV-Net の活動を市民に周知＝会員募集
①「2014 とやま環境フェア」に出展（10 月 18 日、19 日)

中部地域交流会

1．暮らし方交流会成功に向けて実践交流を積み上げる
①「暮らし方交流会」成功に向け世話人会の充実に努めます。（通年）
② 他地域交流会も含め、交流、実践、旅行などを積み重ねます。（9 月、2 月）
③「暮らし方交流会」を開催します。（12 月）
2．月一回の世話人会の定着と世話人の拡大
① 世話人会は、「1」の実現に向け、毎月意見を持ち寄り、中部の思いを固めていきます。
② 面白い仲間を見つけたら、早速出かけます。 ③ 専門家の話を聞く機会を年に 2 回以上持つこととします。

京都地域交流会

1．PV-Net 京都の活動立て直し

① 世話人会の定例化 ② 会議室、活動拠点の確保＆助成金確保 ③ 関連団体との共同研修

2．PV-Net 会員への日常的連絡を密にする

① 会員アンケート調査 ② PV-Green の現状報告 ③ 会員増加の方策研究

3．PV-Net の全国状況と共同発電所実施研修

① 全国の状況調査 ② 共同発電所実施に向けて ③ フォーラム実施

関西地域交流会

1．組織

① 組織強化：会員・非会員向けの発電量近隣比較交流会（9～3 月）、Facebook 等の参加型広報ツール改善（通年）

② 会員の参加仕組みづくり：全員交流会、近隣比較等の参加型イベント企画（9 月）

③ 他団体との連携：エコ縁日〈パネル展示〉(6 月)、 防災訓練〈パネル展示、パンフ作成〉(11 月)

2．啓発

① メンテナンス啓発：一般向け近隣比較セミナー（9 月） ② 省エネ啓発：ソーラークッキング＆ミニセミナー（8 月）

③ 防災啓発： 自治体、自治会向け防災訓練、火災時対応啓発（11 月）

3．活動

① 自立的活動基盤確立：事業開発（受託事業、有償サービス等）、助成金獲得（1～3 月）

② 関西ブロック協議会：体制強化・人材発掘・人材育成（通年）、参加型イベント企画（通年）
意見聴収の仕組みづくり

兵庫地域交流会

1．地球温暖化防止啓発活動

① 太陽光発電設備の普及促進を促すためのフォーラムを 1 回開催します。

② 再生可能エネルギー、自然エネルギーの普及をテーマとした講演会を 2 回、見学会を 1 回開催します。

③ LED を利用した製作講習会を開催します。

2．安定収益基盤の確保

① ひょうご環境保全活動助成金申請 ② 太陽光共同発電所設置

3．地域交流会活動基盤確立

① 世話人会開催 ② イベント企画 ③技術ノウハウの習得

山口地域交流会

1．世話人会の開催

① 世話人会を最低 1 回開催（8 月） ② メール世話人会を適宜行います（1 月、5 月）

2．ミニソーラーカー工作イベント

① 宇部地区開催（7 月、8 月、11 月） ② 周南地区開催（10 月、5 月）

九州地域交流会（福岡地域交流会含む）

1．センターとの協働のもと、組織体制を見直します。
2．市民共同発電所建設の呼びかけ、セミナー等の開催を行います。
3．九州相談員養成講座を開催し、相談員の拡充を図ります。
4．センターとの協働のもと、グリーン電力証書の九州内での販売を強化します。
5．九州内の技術士会や地球温暖化防止推進センター等の連携を図ります。
6．九州ソーラーネットワーク（SONEQ）との連携活動を行います。

佐賀地域交流会

1．佐賀地域の会員の交流をすすめる
　① 会員が PV-Net の活動や PV 健康診断についてより深く理解できるよう努めます。
　② HP を充実させ、会員との情報交換を図るよう努めます。 ③ 会員自身、自立運転の理解を深めます。
2．ソーラー・マイレージの取り組みを通じて地球温暖化防止に資する
　① ソーラー・マイレージの取り組みを紹介し、広く理解を深めるよう努めます。
　② HP に紹介し、ソーラー・マイレージの理解を図るよう努めます。
3．世話人会の力を高める
　① 定期的に世話人会を開催します。 ② 新たに世話人になってくれる会員を探します。

宮崎地域交流会

1．PV-Net 会員の拡大
　① 世話人会を 2 ヵ月ごと、年 6 回開催 ② PV-Net 会員の交流会を年 2 回開催（8 月、2 月）
　③ PV-Green 説明会の開催（9 月、11 月)
2．会の知名度の向上
　① 宮崎県・ 宮崎市・都城市・日南市・川南町等との連携イベント（7～10 月）
　② マスコミへの働きかけ（通年）
　③ 太陽光発電の相談窓口常時開設、太陽光発電の自立運転と省エネの啓発（通年）
3．新エネ・省エネ普及
　① 太陽光発電の屋根貸し事業（通年）
　　（土地貸し・屋根貸しを希望する所有者情報を HP で提供し、施工業者とのマッチングを行う）
　② 省エネセミナーの開催（6 月、2 月）

（5）2014 年度各専門部会活動方針

組織部

1．関東、中部、関西ブロックと事務局の連携を強化します。
2．未組織地域の組織化。東北だけではなく岡山、四国等、新しい地域交流会の立ち上げを目指します。
3．地域活動が活性化するような支援を実施。現在、課題を抱えている九州地域について手立てを尽くします。
4．地域の優れた活動が全国で水平展開されるよう、交流および広報に努めます。

普及広報部

1．ファンドレイジング（資金調達）と一体となった情報発信
2．地域交流会の情報発信サポート

PV-Net の強みを整理し、団体としての価値を組織内外に発信していくことで、共感を促し、会員や寄附者の開拓につなげていきます。具体的施策として、従来から行う情報発信を継続するほか、ホームページに掲載する団体情報の整備やメールマガジンの活用、活動報告書の作成を行います。加えて、現場や担当者の顔の見える情報を発信していくためには、地域交流会の協力も欠かせないため、情報発信について課題を抱えていている地域のサポートも行っていきます。

相談室

1．PV 健康診断システムの再構築
　① 相談員研修会による再教育・再周知　② 地域イベント(フォーラム、講習会等)での普及
2．管理ページの地域アクセス
　① 地域アクセスに関する運用講習会の開催　② ソーラーヘルプデスクの地域分散対応
　③ PV カルテ未登録者の解消活動
3．相談員の人材確保
　① 地域養成講座の支援　② センターの支援機能・ツールの充実

財政部

前年度に引き続き、効率的な財政運営に努めます。また、組織部及び各地域交流会と連携し、会費未納会委員の解消に努めます。新たな事業収益の確保に向けた調査・研究に取り組むこととします。

PV-Green 事業部

1．国内、全般的な観点から、現状のグリーン電力市場の動向を見極め、先手を打つ具体的施策を固めます。
2．PV-Green の新規参加は、会員拡大に大きく寄与していますが、環境価値の販売利益を求めて入会するケースが増えています。本来、PV-Green は、会員自らが環境価値の考え方を一般に広め、利用・販売していくことを目的としていることから、そのための最新ツールを準備します。
3．古い発電分の在庫の活用・整理の対策を進めます。
4．主催イベントや参加依頼のあったイベント・セミナーへの PV-Green の利用を要請します。
5．昨年に引き続き、参加会員に向け、ファームの販売状況を会報等で報告します。
6．昨年に引き続き、販売トピックスを Facebook 等、インターネット上に告知、広報します。

5 号議案　定款変更

定款変更案新旧対照表

改訂前	改訂案	変更理由
（定款の変更） 第５４条　本会が定款を変更しようとするときは、正会員総数の４分の１以上が出席し、その出席した正会員の４分の３以上の多数による議決を経、かつ、~~軽微な事項として~~法第２５条第３項に規定する~~以下の~~事項~~を除いて~~については、所轄庁の認証を得なければならない。 （１）主たる事務所及び従たる事務所の所在地（所轄庁の変更を伴わないもの） （２）資産に関する事項 （３）公告の方法	（定款の変更） 第５４条　本会が定款を変更しようとするときは、正会員総数の４分の１以上が出席し、その出席した正会員の４分の３以上の多数による議決を経、かつ、法第２５条第３項に規定する事項については、所轄庁の認証を得なければならない。	特定非営利活動促進法の改正に伴い、法第 25 条第３項に「軽微な事項」の定めがなくなったため修正

●2号議案 2013年度決算報告

NPO法人太陽光発電所ネットワーク

収　支　計　算　書

(自) 平成25年　6月　1日　(至) 平成 26年5月31日

科　　目	予算額(a)	実績額(b)	差異(b)-(a)	到達率	備考
Ⅰ　経常収入の部					
1　会費収入	6,600,000	5,227,440	▲ 1,372,560	79.2%	個人会員(460)、賛助会員(53)
2　寄付金収入	1,500,000	784,285	▲ 715,715	52.3%	
3　事業収入					
自治体G電力事業	3,400,000	2,425,600	▲ 974,400	71.3%	委託:葛飾区(150)、大垣市(90)
環境省ソーラー価値買取事業	2,000,000	1,596,000	▲ 404,000	79.8%	委託:環境省
福島実証モデル事業	8,200,000	6,158,846	▲ 2,041,154	75.1%	委託:経済産業省
市民共同・ファンド事業	7,300,000	5,770,763	▲ 1,529,237	79.1%	自主事業:野田村、伊豆の国2号機、岡山、恵那山、サポート費(350) 発電所売電収入(小諸、静岡:200)
普及啓発事業(講師派遣等)	4,500,000	5,619,298	1,119,298	124.9%	講座開催、講師派遣/東都生協ソーラー普及事業、自然エネルギー学校(小諸エコビレッジ)、物品販売等
その他事業	4,600,000	814,879	▲ 3,785,121	17.7%	地域事業(60)PVG(24)など
4　助成金収入					
地球環境基金	3,500,000	3,500,000	0	100.0%	助成:(CO2最小化事業)
地域助成金収入	500,000	294,284	▲ 205,716	58.9%	東京(西武信金20)、関西(大阪府10)
5　雑収入	150,000	71,409	▲ 78,591	47.6%	
6　借入金収入	0	200,000	200,000		
7　預金取崩し額	2,420,000	0	▲ 2,420,000		※予算案予備費として計上
経常収入合計(A)	44,670,000	32,462,804	▲ 12,207,196	72.7%	
Ⅱ　経常支出の部					
1. 事業費					
(イ)普及及び啓発に関する事業					
組織費	1,200,000	904,425	▲ 295,575	75.4%	地域交流会費用、組織部費
普及啓発費	7,600,000	4,639,272	▲ 2,960,728	61.0%	普及広報部(会報関連、出展イベント費用等)、普及啓発事業(講師派遣、東都生協ソーラー普及事業、小諸エコビレッジ等)
自治体G電力事業	2,400,000	2,163,157	▲ 236,843	90.1%	委託:葛飾区、大垣市
環境省ソーラー価値買取事業	1,600,000	1,293,039	▲ 306,961	80.8%	委託:環境省
福島実証モデル事業	7,500,000	5,766,556	▲ 1,733,444	76.9%	委託:経済産業省
市民共同・市民ファンド事業	6,700,000	4,382,514	▲ 2,317,486	65.4%	静岡、野田村、サポート事業
その他の事業	5,300,000	2,167,807	▲ 3,132,193	40.9%	地域助成金活動、地域イベント費等
(ロ)設置と管理の情報と相談に関する事業					
相談室費	150,000	109,720	▲ 40,280	73.1%	相談室交通費
(ハ)制度について意見発表に関する事業					
地球環境基金事業	2,000,000	2,057,870	57,870	102.9%	
(ニ)その他会の目的を達成するための事業					
財政部費	60,000	0	▲ 60,000	0.0%	
事業費合計	**34,510,000**	**23,484,360**	▲ 11,025,640	68.1%	
2. 管理費					
人件費	3,400,000	1,487,418	▲ 1,912,582	43.7%	法定福利費含
有償ボランティア費	400,000	610,774	210,774	152.7%	
福利費厚生費	0	112,721	112,721		
会議費	1,200,000	243,388	▲ 956,612	20.3%	総会、理事会費用
印刷費	50,000	20,535	▲ 29,465	41.1%	リソグラフ
旅費交通費	300,000	151,740	▲ 148,260	50.6%	
通信費	750,000	784,529	34,529	104.6%	
賃借料	500,000	622,379	122,379	124.5%	複合機リース料
備品・消耗品費・備品費・修繕費	250,000	239,402	▲ 10,598	95.8%	
地代家賃・光熱費	1,900,000	1,789,515	▲ 110,485	94.2%	
支払手数料	350,000	326,379	▲ 23,621	93.3%	顧問弁護士料等
雑費・雑損益・支払利息	300,000	365,701	65,701	121.9%	
租税公課費	400,000	375,850	▲ 24,150	94.0%	都民税、消費税等
地域事務所費	360,000	0	▲ 360,000	0.0%	
管理費合計	**10,160,000**	**7,130,331**	▲ 3,029,669	70.2%	
3. 予備費		0	0		
4. 差入保証金投資支出	0	50,000	50,000		
5. 借入金返済支出		1,008,000	1,008,000		
当期支出合計(B)	44,670,000	31,672,691	▲ 12,997,309	70.9%	
当期収支差額(A)－(B)	0	790,113	790,113		

PV－Green事業

（自）平成　25年6月　1日　（至）平成26年　5月　31日

特定非営利活動法人太陽光発電所ネットワーク

科目	予算額	実績額	差額	到達率	備考
Ⅰ　収入の部					
1. 証書収入等	2,600,000	1,738,597	▲ 861,403	66.9%	
2. 助成金等収入	200,000	0	▲ 200,000	0.0%	
当期収入合計	2,800,000	1,738,597	▲ 1,061,403	62.1%	
一般会計より繰入	0	0			
前期繰越収支差額	0	0			
収入合計(A)	2,800,000	1,738,597	▲ 1,061,403	62.1%	
Ⅱ　支出の部					
1. 人件費	2,000,000	810,543	▲ 1,189,457	40.5%	
2. 運営費	50,000	679,445	629,445	1358.9%	認証手数料、郵送代
3. 販促費	100,000	0	▲ 100,000		
4. その他経費	50,000	0	▲ 50,000		
事業費計	2,200,000	1,489,988	▲ 710,012	67.7%	
Ⅲ 法人税等	0	0			
Ⅳ 固定資産購入支出	0	0			
支出合計(B)	2,200,000	1,489,988	▲ 710,012		
一般会計へ繰入	600,000	248,609	▲ 351,391		
当期収支差額(A)－(B)	0	0	0		

正味財産増減計算書

（自）平成　25年　6月　1日　　（至）平成　26年　5月　31日

特定非営利活動法人太陽光発電所ネットワーク

科　　目	金	額
Ⅰ. 増加の部		
1 資産増加額		
当期収支差額	790,113	
期末棚卸商品	1,199,050	
出資金増加額	50,000	2,039,163
2　負債減少額		
短期借入金減少額	328,000	
長期借入金減少額	480,000	808,000
増加額合計額		2,847,163
Ⅱ. 減少の部		
1 資産減少額		
期首棚卸商品	1,290,200	
減価償却費	956,799	2,246,999
2 特別損失の発生		
前期損益修正損	189,250	189,250
減少額合計		2,436,249
当期正味財産増加額		410,914
前期繰越正味財産額		4,376,293
期末正味財産合計額		4,787,207

貸　借　対　照　表

平成26年5月31日現在

特定非営利活動法人 太陽光発電所ネットワーク

資　産　の　部		金額（単位：円）	負　債　の　部		金額（単位：円）
Ⅰ 流動資産			Ⅰ 流動負債		
現金・預金	12,218,664		短期借入金	7,000,000	
棚卸資産	1,199,050		未払費用	193,914	
前払費用	178,841		前受金	1,140,000	
未収入金	1,596,000		仮受金	0	
立替金	0		預り金	537,904	
流動資産合計		15,192,555	証書預り金	2,056,564	
			基金預り金	2,401,054	
Ⅱ 固定資産			流動負債合計		13,329,436
有形固定資産	6,790,400				
無形固定資産	27,010		Ⅱ 固定負債		
投資等その他の資産	626,678		長期借入金	4,520,000	
固定資産合計		7,444,088	固定負債合計		4,520,000
			負債合計		17,849,436
			正　味　財　産　の　部		金額（単位：円）
			前期繰越正味財産	4,376,293	
			当期正味財産増加額	410,914	
			正味財産合計		4,787,207
資産合計		22,636,643	負債及び正味財産合計		22,636,643

会計財産目録

平成26年5月31日現在

特定非営利活動法人太陽光発電所ネットワーク

科目			金額	
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金				
現金		事務局	357,792	
		茨城地域交流会	16,499	
		栃木地域交流会	123,336	
		群馬地域交流会	176,184	
		埼玉地域交流会	10,575	
		千葉地域交流会	100,949	
		東京地域交流会	6,661	
		神奈川地域交流会	0	
		山梨地域交流会	69,011	
		静岡地域交流会	0	
		中部地域交流会	14	
		関西地域交流会	15,485	
		宮崎地域交流会	157,614	
		九州地域交流会	127,012	
		佐賀地域交流会	32,767	
		富山地域交流会	150,233	
		山口地域交流会	42,203	
		京都地域交流会	158,172	
		小諸地域交流会	30,748	
		兵庫地域交流会	71	1,575,326
普通預金	三菱東京UFJ銀行 神保町支店	No. 2368131	5,007,673	
	三菱東京UFJ銀行 神保町支店	No. 2417857	1,654,751	
	三菱東京UFJ銀行 神保町支店	No. 2417860	1,098,460	
	郵便貯金	振替口座 00190-7-758332	1,842,689	
	楽天銀行 ロック支店	No. 7015479	35,328	
	郵便貯金	普通口座 10130-79780731	999,948	
	郵便貯金	普通口座 10100-37031031	4,489	10,643,338
棚卸資産				
（書籍）	太陽光発電技術者育成のための基礎知識 @1250×399冊		498,750	
（書籍）	太陽光発電の家づくり入門 @1700×4冊		6,800	
（書籍）	よくわかる自然エネルギーQ＆A @1400×19冊		26,600	
（書籍）	エネルギーシフト @1400×4冊		5,600	
（書籍）	アドバイザー試験公式テキスト @2400×7冊		16,800	
（書籍）	我が家ではじめる太陽光発電 @1600×352冊		563,200	
（書籍）	単管パイプによる太陽光発電 @2000×13冊		26,000	
（商品）	ミニ ソーラーカー @400×2		800	
（商品）	Tシャツ @2000×25		50,000	
（商品）	手ぬぐい @500×9		4,500	1,199,050
前払費用				
（家賃）	湯島ﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞ 倉庫家賃		8,023	
（家賃）	湯島ビルディング 湯島事務所 家賃		134,519	
他 リース料等			36,299	178,841
未収入金				
環境省 環境価値買取事業			1,596,000	1,596,000
流動資産合計				15,192,555
2. 固定資産				
有形固定資産	電話設備 一式		29,808	
	ビジュアルプレゼンター		8,299	
	液晶プロジェクター 1台		14,289	
	輪転機		69,474	121,870
	機械装置（静岡市民共同発電所）		3,575,511	
	機械装置（小諸市民共同発電所）		3,093,019	6,668,530
無形固定資産	電話加入権		27,010	27,010
3. 投資等				
出資金	未来バンク事業組合		139,000	
出資金	合同会社 野田村だらすこ市民共同発電所		50,000	
出資金	恵那山おひさま発電所		30,000	
出資金	静岡市民共同発電所		30,000	
出資金	合同会社 うつくしま		50,000	
差入保証金	湯島ビル 本社事務所保証金		327,678	626,678
固定資産合計				7,444,088
資産合計				22,636,643

科　　目		金　　額	
II　負債の部			
1. 流動負債			
短期借入金		7,000,000	7,000,000
未払費用	地域交流会費用	193,914	193,914
前受金	2014度会費	1,140,000	1,140,000
仮受金		0	0
預り金	給与源泉税	132,095	
	報酬源泉税	9,393	
	住民税	32,400	
	雇用保険料	17,216	
	社会保険料	166,800	
	その他（弁護士顧問料）	60,000	
	その他	120,000	537,904
証書預り金（PV-Green）		2,056,564	2,056,564
基金預り金(PV-Green)		2,401,054	2,401,054
流動負債合計			13,329,436
2. 固定負債			
長期借入金			
（静岡市民共同発電所への出資金）		4,520,000	4,520,000
固定負債合計			4,520,000
負　債　合　計			17,849,436

●4号議案　PV-Net2013年度予算案

収入の部			
基本収入	会費収入	6,600,000	
	寄付金収入	2,000,000	
	基本収入小計	8,600,000	
事業収入	環境省G電力買取事業	2,000,000	
	自治体G事業	3,400,000	確定：委託業務　葛飾（200）大垣（140）
	CO2最小化事業（E基金）	3,500,000	確定：助成
	福島実証モデル事業	8,200,000	確定：助成　（経済産業省）
	市民共同・ファンド事業	7,860,000	確定：自主事業：秋田（50+60）、小諸（30）恵那山（18）、野田村（160+18） 予測：自主事業：新規サポート3件（450）
	教育事業	1,000,000	予測：職業訓練、育成講座、自然エネ学校
	普及啓発事業	2,500,000	予測：講師、セミナー開催、物品販売
	地域の受託・助成・自主事業	1,500,000	予測：15万×10地域
	その他受託事業	4,000,000	予測：三井物産環境基金等
	雑収入	150,000	予測：
	PV-Green事業収入	600,000	特別会計より
	事業収入小計	34,710,000	
収入合計		43,310,000	
支出			
管理費	人件費	2,800,000	
	有償ボランティア費	400,000	
	福利厚生費	600,000	
	会議費	1,200,000	
	旅費交通費	300,000	
	通信費	750,000	
	事務用品等・備品費・修繕費	250,000	
	印刷費	50,000	
	賃借料（リース料）	500,000	
	地代家賃・光熱費・修繕費	1,900,000	
	支払手数料	350,000	
	雑費	300,000	
	租税公課	400,000	都民税+消費税
	地域事務所費	360,000	3ブロック×1万×12ヶ月
	管理費合計	10,160,000	
センター活動費	組織部	1,200,000	
	普及広報部	2,600,000	HP構築費（150）会報3回×（30）等
	相談室	150,000	
	財政部	60,000	
	センター活動費合計	4,010,000	
事業費	環境省G電力買取事業	1,600,000	人件費
	自治体G事業	2,200,000	人件費+運営費（交通費、その他）
	CO2最小化事業（E基金）	1,400,000	人件費+運営費（交通費、その他）
	福島実証モデル事業	7,500,000	人件費+運営費（交通費、その他）
	市民共同・ファンド事業	3,200,000	人件費+運営費（交通費、その他）
	教育事業	800,000	人件費
	普及啓発事業	2,200,000	人件費
	地域受託・助成・自主事業	1,000,000	人件費+運営費（交通費、その他）
	その他受託事業	3,760,000	人件費+運営費（交通費、その他）
	事業費支出合計	23,660,000	
支出小計		37,830,000	
その他	予備費	5,480,000	
支出合計		43,310,000	

特別会計：PV-Green事業

	項目	予算額	備考
PV-Green事業	Ⅰ．収入の部		
	１．証書収入等	2,600,000	手数料収入
	２．その他収入等	200,000	グリーン電力証書化サポート料等
	当期収入合計	2,800,000	
	一般会計よりの繰入	0	
	前期繰越収支差額	0	
	収入合計(B)	2,800,000	
	Ⅱ．支出の部		
	１．人件費	2,000,000	
	２．運営費	50,000	
	３．販促費	100,000	
	４．その他経費	50,000	
	事業費計	2,200,000	
	Ⅲ．法人税等	0	
	Ⅳ．固定資産購入支出	0	
	支出合計(C)	2,200,000	
	一般会計へ繰入	600,000	
	当期収支差額(B)-(C)	600,000	

特定非営利活動法人太陽光発電所ネットワーク

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-10 湯島ビル 602

TEL:03-5085-3577　FAX:03-5085-3588

www.greenenergy.jp

この議案書の印刷で使用する電力は、グリーン電力証書「PV-Green」を利用し、

住宅用太陽光発電から生まれたグリーン電力でまかなっています。